



フェアな価格 確かな信頼

ローリーラック

Lorry Rack

☆RIM LORRY RACK PRICE INTELLIGENCE DAILY

★No. 5009 Jul 30 2019

Copyright(C) 2019 RIM Intelligence Co. All rights reserved.

東京時間2019年7月30日火曜日17時30分<Assessment Closing Time>

「リム価格」は登録商標です 登録番号・第5387777号

「4リム価格」は登録商標です 登録番号・第5660925号

「リムラック価格」は登録商標です 登録番号・第5660926号

◎お知らせ

○IMO最新動向・アセスメントメソドロジー説明会のお知らせ

国際海事機関(IMO)が2020年1月から船舶油の硫黄分規制を強化するのに伴い、リム情報開発はいわゆる「適合油」の価格評価を9月以降、複数のレポートで順次、開始いたします。これに関する説明会を9月10日(火)13時30分より、下記のとおり開催いたします。また、国内外の適合油最新動向を、当社の担当記者が説明いたします。参加無料。参加を希望される方は下記のリンクよりお申込みください。

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/2019methoSetsume/>

【アセスメントメソドロジー説明会】

日時：9月10日(火) 13時30分～16時00分(13時受付開始)

場所：株式会社QUICK 「QUICK Square(クイックスクエア)」

東京都中央区日本橋室町2-1-1 日本橋三井タワー14F(三越前駅)

内容① IMO最新動向

② アセスメントメソドロジー説明会(順不同)

* バンカーオイルレポート

* 国内石油製品レポート

* アジア石油製品レポート

* LPGレポート

◎リムエネルギー総合指数22種(レックス22、2010年平均=100)

30日のレックス22は、前日から0.24ポイント下落し93.91です

-----リムレポートのご紹介-----

リム情報開発のレポートラインアップは、下記のURLからアクセスください。各レポートのサンプルに加え、内容についての詳細な説明がご覧いただけます。

<https://www.rim-intelligence.co.jp/first/report>

原油・コンデンセート	アジア石油製品	バンカーオイル
ローリーラック(国内陸上)	ジャパン石油製品(国内海上)	LPG
石油化学	ポリオレフィン	LNG
電力	デイリーデータ	Rim Data File
CROSS VIEW軽油	CROSS VIEW重油	

上記に関するお問い合わせはこちらまで

TEL 03-3552-2411 E-mail info@rim-intelligence.co.jp

東京時間2019年7月30日火曜日17時30分

◎東名阪製油所出しローリーラック市況 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	千葉	中値	前日比	川崎	中値	前日比	京浜中値	前日比
ガソリン	58.4~58.9	58.65	0.00	58.4~58.9	58.65	0.00	58.65	0.00
灯油	58.5~59.5	59.00	0.00	58.5~59.5	59.00	0.00	59.00	0.00
課税軽油	60.0~60.5	60.25	0.00	60.0~60.5	60.25	0.00	60.25	0.00
未課税軽油	60.9~61.5	61.20	0.00	60.9~61.5	61.20	0.00	61.20	0.00
A重油	58.5~59.0	58.75	0.00	58.5~59.0	58.75	0.00	58.75	0.00
LSA重油	58.5~59.5	59.00	0.00	58.5~59.5	59.00	0.00	59.00	0.00

油種	中京	中値	前日比	阪神	中値	前日比	4リム中値	前日比
ガソリン	56.7~57.7	57.20	0.00	57.7~58.2	57.95	0.00	58.11	0.00
灯油	59.5~60.3	59.90	0.00	60.0~60.5	60.25	0.00	59.54	0.00
課税軽油	60.0~60.5	60.25	0.00	59.8~60.3	60.05	0.00	60.20	0.00
未課税軽油	60.8~61.5	61.15	0.00	60.8~61.0	60.90	0.00	61.11	0.00
A重油	59.0~59.6	59.30	0.00	59.0~59.5	59.25	0.00	59.01	0.00
LSA重油	59.5~60.1	59.80	0.00	59.5~60.0	59.75	0.00	59.39	0.00

◎東名阪油槽所出しローリーラック市況 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	八潮	中値	前日比	横浜	中値	前日比	京浜中値	前日比
ガソリン	58.0~58.7	58.35	+0.45	60.1~60.3	60.20	0.00	59.28	+0.23
灯油	59.0~60.0	59.50	0.00	59.2~59.9	59.55	0.00	59.53	0.00
軽油	60.5~61.5	61.00	0.00	63.5~64.5	64.00	0.00	62.50	0.00
A重油	60.0~60.3	60.15	0.00	62.0~63.0	62.50	0.00	61.33	0.00
LSA重油	60.0~60.3	60.15	0.00	62.5~63.5	63.00	0.00	61.58	0.00

油種	中京	中値	前日比	阪神	中値	前日比	油槽所中値	前日比
ガソリン	57.2~58.0	57.60	+0.25	57.5~58.0	57.75	0.00	58.48	+0.18
灯油	59.5~60.3	59.90	+0.15	60.0~60.5	60.25	0.00	59.80	+0.04
軽油	60.5~61.0	60.75	0.00	60.0~61.0	60.50	0.00	61.56	0.00
A重油	59.2~60.2	59.70	0.00	59.2~59.7	59.45	0.00	60.45	0.00
LSA重油	59.7~60.7	60.20	0.00	59.7~60.2	59.95	0.00	60.83	0.00

※前日比は中値ベース

※製油所の京浜中値は千葉・川崎中値の単純平均値

※4リム中値は千葉・川崎・中京・阪神製油所の単純平均値

※油槽所の京浜中値は八潮・横浜中値の単純平均値

※油槽所中値は八潮・横浜・中京・阪神の単純平均値

※ローリーラック価格、輸入採算価格、海陸市況格差、先物のガソリンはレギュラーが対象で揮発油税53.8円を含まず

※軽油は軽油引取り税32.1円を含まず

※中値は小数点第3位を四捨五入

※原油輸入平均CIF価格の r は修正

※為替は三菱UFJ銀行が午前10時30分に発表する数値を使用

◎東名阪製油所・油槽所出し中値平均値 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	京浜地区	前日比	中京地区	前日比	阪神地区	前日比
ガソリン	58.96	+0.11	57.40	+0.12	57.85	0.00
灯油	59.26	0.00	59.90	+0.07	60.25	0.00
軽油	61.32	0.00	60.72	0.00	60.48	0.00
A重油	60.04	0.00	59.50	0.00	59.35	0.00
LSA重油	60.29	0.00	60.00	0.00	59.85	0.00

◎その他の製油所・油槽所出しローリーラック市況 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	北海道	中値	前日比	仙台	中値	前日比
ガソリン	59.7~60.2	59.95	0.00	59.8~60.2	60.00	0.00
灯油	60.5~61.5	61.00	0.00	61.2~61.5	61.35	0.00
軽油	61.5~62.0	61.75	0.00	61.5~62.0	61.75	0.00
A重油	59.7~60.0	59.85	0.00	59.7~60.0	59.85	0.00
LSA重油	60.2~60.5	60.35	0.00	60.2~60.5	60.35	0.00

油種	四国	中値	前日比	福岡	中値	前日比
ガソリン	57.9~58.9	58.40	+0.35	57.2~58.2	57.70	+0.25
灯油	60.9~61.5	61.20	0.00	61.5~62.2	61.85	0.00
軽油	60.1~61.1	60.60	0.00	61.2~62.0	61.60	0.00
A重油	59.8~60.3	60.05	+0.05	60.5~61.3	60.90	0.00
LSA重油	60.3~60.8	60.55	+0.05	61.0~62.0	61.50	0.00

◎SS向けスポット卸市況 (円/リットル、ローリー届け、1.0~1.5円運賃圏)

油種	京浜	前日比	中京	前日比	阪神	前日比
ガソリン	113.0~114.0	0.0	112.5~113.0	0.0	112.0~113.0	0.0
灯油	61.0~62.0	0.0	60.5~61.0	0.0	61.0~62.0	0.0
軽油	94.5~95.5	0.0	94.0~94.5	0.0	93.5~94.5	0.0

◎ユーザー向け産業燃料油市況 (円/リットル、ローリー届け、1.5円以下運賃圏、大口向け、8月分)

油種	京浜	前日比	中京	前日比	阪神	前日比
灯油	62.0~63.0	0.0	61.0~62.0	0.0	61.0~62.0	0.0
軽油	92.8~93.8	0.0	93.5~94.5	0.0	92.5~93.5	0.0
A重油	61.5~62.5	0.0	60.5~61.5	0.0	60.0~61.0	0.0
LSA重油	62.0~63.0	0.0	61.0~62.0	0.0	60.5~61.5	0.0

※前日比は中値ベース

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の京浜地区は製油所の京浜中値と油槽所の京浜中値の単純平均値

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の中京地区は製油所の中京中値と油槽所の中京中値の単純平均値

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の阪神地区は製油所の阪神中値と油槽所の阪神中値の単純平均値

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の軽油は製油所の課税、未課税、油槽所の単純平均値

※SS向けスポット卸市況およびユーザー向け産業燃料油市況は揮発油税・軽油引取り税を含む

※中値は小数点第3位を四捨五入

◎東商取バージ先物・日中取引(東京湾岸製油所・油槽所出しバージ取り、円/リットル)

ガスolin	始値	高値	安値	帳入値	前日比	出来高	
9月限	55.57	56.10	55.57	56.10	+0.81	26	
10月限	53.64	53.93	53.64	53.88	+0.78	27	
11月限	52.20	52.66	52.20	52.58	+0.73	20	
12月限	51.40	51.55	51.40	51.47	+0.73	31	
1月限	50.22	50.65	50.22	50.57	+0.74	302	
2月限	49.98	50.29	49.98	50.21	+0.71	256	
合計						662	
灯油							
9月限	59.10	59.29	59.10	59.26	+1.05	23	
10月限	59.19	59.28	59.12	59.26	+0.86	25	
11月限	58.84	59.18	58.84	59.18	+0.94	55	
12月限	58.79	59.13	58.78	59.13	+1.00	73	
1月限	58.08	58.99	58.08	58.98	+1.01	157	
2月限	57.69	58.55	57.69	58.52	+1.08	267	
合計						600	
軽油							
9月限	-	-	-	62.20	0.00	-	
10月限	-	-	-	61.90	0.00	-	
11月限	-	-	-	61.60	0.00	-	
12月限	-	-	-	61.30	0.00	-	
1月限	-	-	-	61.00	0.00	-	
2月限	-	-	-	60.70	0.00	-	
合計						-	
原油							
7月限	43.01	43.01	42.87	42.96	+0.03	13	
8月限	42.63	42.70	42.61	42.70	+0.68	75	取組高 (7/29)
9月限	42.09	42.22	42.05	42.22	+0.72	50	ガスolin 売 4,413 買 4,413
10月限	41.48	41.58	41.47	41.58	+0.63	92	灯油 売 1,653 買 1,653
11月限	40.85	40.98	40.85	40.98	+0.68	432	軽油 売 0 買 0
12月限	40.37	40.50	40.37	40.49	+0.68	1,908	原油 売 53,157 買 53,157
合計						2,570	1枚=50kl

◎東商取中京ローリー先物・日中取引(潮見および飛島油槽所出しローリー取り、円/リットル)

ガスolin	始値	高値	安値	帳入値	前日比	出来高	
9月限	-	-	-	56.50	0.00	-	
10月限	55.00	55.00	55.00	55.00	+0.50	1	
11月限	-	-	-	55.50	0.00	-	
12月限	-	-	-	53.60	0.00	-	
1月限	-	-	-	53.00	0.00	-	
2月限	-	-	-	53.00	0.00	-	
合計						1	
灯油							
9月限	-	-	-	60.50	0.00	-	
10月限	-	-	-	60.50	0.00	-	
11月限	-	-	-	61.00	0.00	-	
12月限	-	-	-	61.50	0.00	-	取組高 (7/29)
1月限	-	-	-	61.00	0.00	-	ガスolin 売 488 買 488
2月限	-	-	-	61.00	0.00	-	灯油 売 63 買 63
合計						-	1枚=10kl

◎輸入採算価格 (SR船型、韓国出し、関税・石油石炭税込、円/kl)

	北海道	前日比	京浜	前日比	中京	前日比	関門	前日比
ガソリン	55,229	+963	55,022	+963	54,814	+962	54,538	+961
灯油	61,104	+749	60,896	+747	60,689	+747	60,413	+746
軽油	60,575	+779	60,367	+778	60,160	+777	59,883	+776
A重油	55,850	+775	55,642	+773	55,435	+773	55,158	+771

※SR船型による輸入、A重油は免税ベース、軽油は硫黄分10ppm

※輸入採算価格はリムアジア製品レポート掲載のシンガポール市況(ペーパー)をベース

◎海陸市況格差 (陸上4製油所平均-海上バージ市況)

ガソリン	-2.39	灯油	+2.92	未課税軽油	-2.69
A重油	+0.51	LSA重油	+0.39		

※4製油所平均=千葉、川崎、中京、阪神

◎指標原油

WTI (NYMEX 9月限, \$/bbl, 7/29 close)	56.87	+0.67
WTI (NYMEX ACCESS 9月限, \$/bbl, 7/30 5:00pm 東京時間)	57.25	+0.38
ドバイ (ペーパーズワップ, \$/bbl, 7/30 東京夕刻)	63.39 ~ 63.43	+1.05
ドバイ (ペーパーズワップ, 円/kl, 7/30 東京夕刻)	43,830	+899
ドバイ (ペーパーズワップ, 円/kl, 7/24~7/30平均)	43,272	+214
ドバイ (ペーパーズワップ, 円/kl, 7/16~7/22平均)	42,940	-87
東商取ドバイ原油当限 (円/kl, 7/30 引け)	42,960	+30

◎原油輸入平均CIF価格 (JCC、円/kl、財務省)

19/05/01-31 50,995r	19/06/01-30 50,137r	19/07/01-31 8月19日発表予定
19/05/01-10 50,785	19/06/01-10 50,981	19/07/01-10 47,273
19/05/11-20 51,095	19/06/11-20 50,046	19/07/11-20 8月7日発表予定
19/05/21-31 51,026	19/06/21-30 49,564	19/07/21-31 8月19日発表予定

◎Rim JCC予想値 (円/kl)

19/7月	45,210	±0	19/8月	45,660	+30	19/9月	45,980	+790
-------	--------	----	-------	--------	-----	-------	--------	------

【週間サマリー】ドバイ(ペーパーズワップ)は30日、24~30日の平均値が43,272円と、23日の水準(17~23日)から645円上昇した。英国政府がホルムズ海峡での英国船舶護衛を目的に、海軍の派遣を開始したことなどで地政学的緊張が高まり、WTI原油、ブレント原油とともにドバイ・スワップが買われた。JCC(Japan Crude Cocktail)予想値は、7月物が23日比変わらずの45,210円。8月物が同比240円高の45,660円。9月物が同比940円高の45,980円。

◎概況・トッパー停止状況=1基、停止8.0%
○陸上ローリー市況

30日の東名阪4リム製油所出しは完全様子見。月末の波乱はなく、各地区ともに動意が限定された。市場関係者の多くは8月相場に目を向けている。地方二次基地も総じて前日並み。四国と福岡でガソリンの底上げが進んだ。

○ドバイ原油市況

ドバイ原油価格は、東京時間の30日夕刻時点で前日比1.05ドル高の63.39~63.43ドル。これを基にした製品コストは同0.9円高の47.5円と試算される。9月の国内製品コスト推定値は、7月26日~8月23日算定で8月推定値より0.4円高の47.5円となる見込み。なお、製品コストが現在から同水準で推移する前提で試算した週間コストは、30日~8月5日分が前週比0.8円高の47.5円になりそうだ。一

方、7月30日の製品輸入コストは、前日と比較し全油種で上昇している。

○元売り市中調達

30日の調達は東西で浮上せず。ただ、京浜では民族系大手元売りがガソリンを物色した形跡があるようだ。

○ガソリン輸入

貿易統計によると、6月に輸入されたガソリンは18万9,516klとなり、ほぼ前年並みだった。港別では、堺泉北港が6万6,895klでトップ。次いで名古屋港が3万3,997kl、徳山港が2万9,309kl。仙台塩釜港にも1万1,273klが荷揚げされている。

○7～8月のアセスメント評価対象について

- ① 7月最終日となる31日は水曜日となるため、通常通り翌日の受渡物を評価対象とし、2～7日先までの受渡物が参考となります
- ② 8月最終日となる30日は金曜日となるため、9月2日の受渡物を評価対象とし、2～7日先までの受渡物が参考となります。
- ③ 8月のお盆期間は通常どおりレポートを発刊します。

◎北海道(苫小牧・石狩)

○概況

スポット流通玉市況はもち合った。7月商談はほぼ一巡しており、オーダー自体が限定されると伝える卸業者がほとんど。また、8月商談に向けても、原油市況の推移を勘案すると、1日以降に適用される元売り各社の週次仕切りは据え置き、もしくは小幅引き上げにとどまるとの見方が根強い。これが動意薄の一因となっているようだ。

○ガソリン

59.7～60.2円（揮発油税込み113.5～114.0円）と前日から横ばい。

31日渡しまでのオーダーは一巡しており、新規での取引は限定され、動意薄の様相を呈していた。卸業者は手持ちとコストに見合った唱えに徹し、気配探りを続けている。このうち、苫小牧出しでは、在庫玉を原資として

いる数社が113.5円を唱えている。また、元売り玉のうち、民族系元売り玉を扱う複数ディーラーの唱えは113.8～114.0円、114.1円以上と変化を欠いた。もっとも、31日期限の系列仕切りでは114円前後の仕上がりは一般的であるため、114.0円を超えるは取引対象となっていない。

○灯油

60.5～61.5円と前日から横ばい。

不需要期であることや、溜め込みを目的とした引き合いも閑散としており、業者間の売買がほとんど進んでいる様子がなかった。各

社の31日期限の唱えに変化はなく、相場に影響を及ぼす動きがなかった。在庫玉を扱う複数の卸業者の唱えは、苫小牧出しで60.5～61.0円。また、民族系元売り玉を扱う卸業者

の唱えは31日期限で苦小牧出しが60.7～61.5円、61.7円以上と膠着している。旧米メジャー系元売り玉が61.5円まで入手が可能。

主要出し元玉のうち、旧外資系元売り玉が苦小牧出しで63円台後半。また、石狩出しの民族系元売り玉の唱えは61.7円以上。

○軽油

61.5～62.0円と前日から横ばい。

業者間のEXパイプの取引は閑散としたままで、既報のとおり、少ない卸取引は持ち届けの売買が進んでいるに過ぎなかった。多くの卸業者は唱えを変えずに反応を探っている。民族系元売り玉を扱う卸業者は未課税で61.5～62.0円が広く唱えられていた。一方、

旧米メジャー元売りの未課税玉は広域ディーラーの一角が31日渡しから休止したが、民族系元売り玉の玉にオーダーが移行している様子はなかった。石狩出しは民族系元売り玉の未課税玉を扱う卸業者の唱えは63.6円以上と一段高に定着。買付け対象になっていない。

○重油

A重油は59.7～60.0円と前日から横ばい。

白油同様に7月商談は一巡しており、相場の変動は見受けられなかった。民族系元売り玉を扱う複数の唱えは31日期限で膠着。苦小牧出しは59.7～60.0円、60.2円以上。また、

在庫玉を扱う卸業者が苦小牧出しで60.0円を唱えている。外資系元売り玉を扱う卸業者の唱えは61.0円以上と一段高に定着。LSA重油はA重油比0.5円高が主流。

◎東北（仙台）

○概況

仙台出しのスポット価格は、もち合い。月内の価格を維持するディーラーが多かった。また、枠消化を終えたプレーヤーの中には、価格提示を見送るところもあった。二次基地では、八戸で安値が残っているものの、秋田、釜石などは消化を終えたことで、売り圧力が後退しているという。輸入船の動向では、26日に韓国の麗水を出港したSUNSHINE EXPRESSが、30日に仙台塩釜港に入港している。

○ガソリン

59.8～60.2円（揮発油税込み113.6～114.0円）で前日から横ばい。

仙台出しの価格は、大手ディーラーは価格提示を見合わせたが、別のディーラーの唱えである113.6円は確認された。そのほかでも、114円の価格は出ていた。一方、届け玉も31日までは変わらず、民族系元売り玉をベースに112.9円など113円割れで手当てが可能だ。

112円台の価格も残っている。「112.4円まで対応せざるを得なかった」（ディーラー）。また、秋田、小名浜、釜石等の出荷基地で出ていた安値の玉も、31日分については聞かれなくなったという。

青森、八戸の価格は、枠消化に伴い価格を切り上げたディーラーがいる半面、八戸では

○灯油

61.2～61.5円で前日から変わらず。

仙台出しは、大手ディーラーは61.5円の唱え。早めに消化を終えたディーラーが多く、31日分の価格で下押しする気配はなかった。広域ディーラーの提示する61.2円が下限として伝えられた。

青森、八戸は、62円以上の価格が一般的。62円台前半でオーダーが伝えられた半面、気温の上昇に伴い引き合いはほとんど入っていないとの声もあり、「価格の問題ではない面もある」（市場関係者）。

○軽油

61.5～62.0円で前日から横ばい。

仙台出しの未課税玉は、広域ディーラーが61.5円だが、大手ディーラーは価格提示を見合わせた。一方で最大手民族系元売り玉の扱い筋は62円。課税玉は、広域ディーラーの61.5円が、蔵出し価格の安値だという。届け

取引では、EXベースに換算して61円台前半が伝えられており、こちらも先週から横ばい。

青森、八戸の課税玉は、62.3円でもオーダーは入るとの指摘があり、62円台前半が標準的な価格を形成している。

○重油

A重油は59.7～60.0円、LSA重油は60.2～60.5円で前日水準を維持した。

仙台出しのA重油は月末になり、価格を提示するプレーヤーも限られてきている。大手や商社系ディーラーは価格提示がなく、広域ディーラーからは59.7～60.0円で手当て可能。

青森、八戸のA重油は、60円台の玉もあるが、61円台でも買いは入るといふ。

官公需向けは、26日に開札された青森県立中央病院向け8月納期のA重油108klは、届け61.4円で富士見総業が落札した。

◎京浜

○概況

製油所出しはもち合った。月内取引が終了しており、スポット市場の動意が薄かった。すでに月次販売枠の消化を終え、市場から離脱するプレーヤーが多い。ただ、前日までの段階で月内のオーダーをまとめた業者が大半とあって、積極的に買い進める業者も限定的だった。元売り各社の仕切り価格改定結果を控え、様子見に徹する向きも少なくなかった。

○ガソリン

製油所は千葉出しが前日から横ばいの58.4～58.9円（揮発油税込み112.2～112.7円）、川崎出しが前日から横ばいの58.4～58.9円（揮発油税込み112.2～112.7円）。油槽所は東京・埼玉出しが前日から0.45円高の

58.0～58.7円（揮発油税込み111.8～112.5円）、横浜出しが前日から横ばいの60.1～60.3円（揮発油税込み113.9～114.1円）。

製油所出しでは、大きな動きがなかった。前日までのうちに月内取引を終え、市場から

離脱するプレーヤーが多かった。元売りの仕切り価格が改定される8月1日以降の商談にすでに卸各社の関心が移っていた。

千葉、川崎ともに112.2~112.7円と前日から取引相場に変化なし。市場をリードしてきた中堅元売り玉の取扱い業者は手持ちがなくなり概ね出荷を停止。同元売り玉を担いだ一部ディーラーや、民族系元売りルート玉を残していた卸業者が相場のレンジ内で売り唱えていた。同元売り玉を扱うディーラーの中には、一部111円台半ば~112円近辺まで対応する売り手もあったようだ。ただし、こちらは個別対応の側面が強く、手当て可能な業者がごく限られた。

一方、民族系元売り玉を担いだ別の複数ディーラーや、民族系最大手元売り玉の取扱いディーラー、旧外資系元売り玉の取扱い各社、旧米メジャー系元売り玉を扱う複数卸業者、

中堅元売り玉を扱う一部ディーラーなどは112.8~114円台後半で提示した。ただし、新規の売買動意に欠け、積極的に買い進める動きは限られた。

油槽所出しはまちまちの展開だ。東京・埼玉では、中堅元売り玉を扱うディーラーや、在庫玉を担いだ広域ディーラーが値上げした。3日出荷分で仮需のオーダーが集まったため、出荷抑制に動いたもよう。取引相場は111.8~112.5円まで切り上がった。一方、横浜は大きな動きがなく、取引相場は113.9~114.1円と前日から変らなかった。

SS届けベースのノンブランド・ガソリン卸市況は、1.5円運賃圏で113.0~114.0円と前日水準を保った。

東商取9月限の帳入値は前日比0.81円高の56.1円(揮発油税込み109.9円)。

○灯油

製油所は千葉出しが前日から横ばいの58.5~59.5円、川崎出しが前日から横ばいの58.5~59.5円。油槽所は東京・埼玉出しが前日から横ばいの59.0~60.0円、横浜出しが前日から横ばいの59.2~59.9円。

製油所出しでは、他油種同様に大きな動きがみられなかった。月内取引を終え、出荷を止める業者が増勢となったが、買い気も乏しく相場が上がることはなかった。実需が乏しいほか、前日までに月内取引を終えた業者が多いことが背景にありそうだ。元売り各社の仕切り改定を控え、様子見に徹するプレーヤーも少なくなかった。

千葉、川崎ともに58.5~59.5円と前日並みで取引可能だった。中堅元売り玉を担いだ一部ディーラーや、旧外資系元売り玉を扱う複

数ディーラーが同レンジ内で商談を継続していた。一方、これらの元売り玉に加え、民族系最大手元売り玉、民族系元売り玉、旧米メジャー系元売り玉をそれぞれ担いだ別の卸業者などは59円台後半~63円近辺で打ち出した。ただし、こちらはやや割高に映り、買い手の関心は低かった。

油槽所出しも動きなし。月内販売にめどをつけ、出荷を止める動きなどもみられたが、買い気が弱く、相場を押し上げるには至らなかった。東京・埼玉は59.0~60.0円、横浜は59.2~59.9円といずれも前日並みで取引可能だった。

東商取9月限の帳入値は前日比1.05円高の59.26円。

○軽油

製油所出しの課税玉は60.0~60.5円、未課税玉は60.9~61.5円。油槽所出しは東京・埼

玉が60.5~61.5円、横浜が63.5~64.5円。全出荷地で前日水準を維持した。

7月商談もおおむね一巡。卸業者によっては手持ち消化を進めて販売を休止する動きも出てきたが、相場に影響を及ぼす動きはなかった。31日渡しの商談は持ち届けて取引を進める動きは散見されたが、EXパイプで取引を進める動きは限定された。

製油所出しの課税玉では、中堅元売り玉、および外資系元売り玉を扱う複数ディーラーが31日期限で千葉、川崎で60.0~60.5円の唱えを維持していた。時間の経過とともに、手持ち整理を進めたいずれの出し元玉の卸業者では、60.7円以上を唱える、もしくは販売を休止して様子見に退く動きもあった。ただ、31日期限で未課税玉で61.5円以下の玉が依然として入手可能であることや、首都圏のインタンク向けの取引では、課税のEXパイプに換算すると、60円を挟んだ価格帯に相当する売買が進んでいるため、60.5円を超える玉を買付け対象となっている様子はなかった。一方、手持ちコスト上の理由から高唱えをせざるを得ないディーラーは取引に関わっていない。このうち、民族系元売り玉を扱う広域ディーラーの主流唱えは60.7~61.8円。旧外資系元売り玉の広域ディーラーの主流唱えは61.0~62円台前半。旧米メジャー系元売り玉の主流唱えは60.7~61.0円。このうち、旧外資系元売り玉を扱う卸業者では、「7月の販売量は前年比で30%前後落ちているケ

ースも少なくない」(複数の広域ディーラー)との声も挙がった。既報のとおり、これらの落ち込んだ数量を今後どのように出し元がコントロールしてゆくのか、市場関係者の関心が寄せられている。

未課税玉の相場も変動はなかった。主要出し元玉を扱う卸業者が相場を形成。商社系、広域ディーラーの31日期限の唱えは、千葉、川崎で60.9~61.5円に集中した。旧米メジャー系元売り玉を扱う広域ディーラーの一角は販売休止を広く通知したが、これに伴い、他の継続販売しているディーラーにオーダーが振り返えられるような動きはなかった。

油槽所出しは、東京・埼玉、横浜ともに前日の相場から影響を及ぼす動きはなかった。東商取8月限の帳入値は前日から横ばいの62.2円。

インタンク向けの8月前半渡し折衝では、大手宅配の首都圏複数事業所向けは、届け92円台後半~93円台後半の決着が伝えられた。このうち、製油所出しからの配送コストが1.5円圏の事業所向けは、届け92円台前半~93円台前半で、民族系元売りのディーラーが落札したと複数の市場関係者が伝えた。7月以降、首都圏のインタンク向けの商談では、民族系元売りのディーラーによる攻勢が目立っており、8月以降もこれが継続するかに、市場関係者の関心が寄せられている。

○重油

A重油の製油所は千葉出しが前日から横ばいの58.5~59.0円、川崎出しが前日から横ばいの58.5~59.0円。油槽所は東京・埼玉出しが前日から横ばいの60.0~60.3円、横浜出しが前日から横ばいの62.0~63.0円。

LSA重油の製油所は千葉出しが前日から横ばいの58.5~59.5円、川崎出しが前日から横ばいの58.5~59.5円。油槽所は東京・埼玉出しが前日から横ばいの60.0~60.3円、横浜出しが前日から横ばいの62.5~63.5円。

製油所出しでは、月内取引が概ね終了し、市場に残るプレーヤーが限定的だった。商いは閑散としており、取引相場にも大きな動きがみられなかった。

千葉、川崎ともにLSA重油は58.5~59.5円で引き続き取引可能だった。旧外資系元売り玉を主に扱う商社系、広域系ディーラーが同レンジ内で販売を進めていた。一方、同元売り玉を担いだ別の卸各社や、民族系元売り玉の取扱い大手ディーラー、民族系最大手元売

り玉を担いだ複数ディーラー、旧米メジャー系元売り玉の取扱い各社、中堅元売り玉を扱う一部のディーラーなどは59円台後半～61円台半ばで売り唱えた。ただし、こちらはやや買い妙味に欠けたようで、買い手の関心は低いままだった。

油槽所出しLSA重油も動きなし。月内取引が一巡しており、市場の売買動意が薄かった。東京・埼玉は60.0～60.3円、横浜は62.5～63.5円といずれも前日から相場に変化はみられなかった。

◎中京

○概況

製油所出しは様子見が大勢。月末を迎え、取引一巡を伝える市場関係者が多かった。一方、9号地はガソリンと灯油が底上げ。安値玉の整理が進んだようだ。

○ガソリン

製油所出しは前日から変わらずの56.7～57.7円(揮発油税込み110.5～111.5円)、9号地は同0.25円高の57.2～58.0円(同111.0～111.8円)。

31日引取り分の製油所出しは前日水準を維持。一部で安値玉が残ったものの、広域系卸業者を中心に月内商談にめどを付けたところも多く、積極的なやり取りは限られた。寄せられた売買唱えでは、四日市玉をベースに110.5～111円、さらに111.5円まで各出荷ルート玉が専ら。広域系のなかには、すでに販価の提示を終え、一線から退く動きも見受けられた。

7月は民族系大手元売りと旧外資系元売りの仕切り一本化を受け、同社玉の底上げを伝える声や、様子見を強める卸業者も多かった。一方、これまで馴染みが薄かった中堅元売り玉が広がりを見せたため、「強弱材料で8月商戦が読みづらい」(広域系)と困惑気味。

中京製油所出しの月間平均値をみると、月初を起点に当日中値が月末まで続くと仮定した場合、112.3円相当に見積もられる。

9号地は底上げ。大手タンク業者は安値対応を見送り、111.3～111.5円のやり取りが多かったようだ。量販店向けに111.3円で商談を進めた形跡もある。

広域系間でも111円切れの出物は整理され、商社系ターミナルや丸中ターミナルを中心に111.0～111.5円の売買唱えや実際のやり取り、さらに111.8円まで小口ながらオーダーを集めた広域系も見受けられた。

東商取中京ローリー9月限は前日から変わらずの56.5円(同110.3円)で日中取引を終えた。出来高はゼロ。

北陸地区では、地場系中心に金沢出し114～114.5円、広域系が113.5円に対応と伝えられた。また、金沢市内では、今月下旬に小売市況が底上げされ、一般セルフ店で実売133～135円が多く、コストコ野々市店は131円に設定されているという。

そのほか、中京や北陸地区でも民族系大手元売りの小売決済新サービスが人気化しており、同ブランドSSでは品切れ状態が目立つようだ。一方、今月は天候不順が続き、小売販売の苦戦が伝えられる中、「新サービスが一定の集客確保にはつなげた側面はあった」(地場系)という。

需給面では、貿易統計によると、6月に輸入されたガソリンは約19万klでほぼ前年並みとなった。うち名古屋港へ約3万4,000kl、金沢港にも約5,400klが荷揚げされた。

○灯油

製油所出しは前日から変わらずの59.5～60.3円、9号地は同0.15円高の59.5～60.3円。

31日受渡しの製油所出しは前日水準を維持。卸業者の多くが月内取引を終え、総じて様子見に退いた。卸業者間の売買唱えは前日から大きな変化はなく、四日市玉中心に59.5～60.3円が残った。

9号地は底上げ。大手タンク業者は価格改定を見送り、次の材料待ち。元売り各社の仕切り改定次第で即日値上げを検討しているという。一方、広域系間では、中堅元売り玉を織り込んだ59.5～60円、さらに小口ながら仮需めいた引き合いも入り、「60.3円までの売買

唱えでオーダーが拾えた」（広域系）などの声も寄せられた。安値玉が整理され、買い手の中にはオーダー先が限られたところもあったようだ。

東商取中京ローリー9月限は前日から変わらずの60.5円で日中取引を終えた。出来高はゼロ。

北陸地区の8月納め灯油入札では、富山市が29日に開札した12klが届け64円、富山大学が26日に開札した64klが同63.8円でそれぞれ落札。また、同じく26日に開札の総合社会福祉センター60klは同64.0円で落札された。

○軽油

製油所出し課税玉は前日から変わらずの60.0～60.5円、未課税玉も変わらずの60.8～61.5円、9号地も変わらずの60.5～61.0円。

31日引渡し分の製油所、9号地は様子見ムードが広がった。多くの卸業者が月内商談にめどを付け、表立って踏み込んだ売買唱えは浮上せず。製油所の課税玉は、前日から大きな価格改定はなく、四日市玉を中心に60～60.5円、未課税玉も前日並みの売買唱え60.8～61.5円が残った。

9号地も様子見。大手タンク業者や広域系各社ともに価格過程を見送り、関心を8月相場に切り替えた。足元で残った売唱えは、各出荷地ベース課税玉および未課税玉で60.5

～61円。

インタック納入交渉をみると、大手宅配業者向け8月前半納価は、愛知県下の物流基地で届け93円台半ばと伝えられた。また、一般陸運向けの月決め交渉では、愛知県や三重県中心に同93.5～94円相当で話し合いが進んでいるという。

船舶動向では、四日市港に28日入港した「STI GRAMERCY」は約5万klの軽油を積み、31日にオーストラリアへ向け出港する。

そのほか、貿易統計によると、6月に輸入された軽油は全国ベースで6万623klにとどまり、前年を30.3%下回った。名古屋港へは約1万4,000klが荷揚げされている。

○重油

製油所出しLSA重油は前日から変わらずの59.5～60.1円、9号地も変わらずの59.7～60.7円。

31日引取り分の製油所、9号地は前日から大きな動きはなかった。軽油同様、おおよそ取引は一巡し、様子見に退く卸業者も多かったようだ。

製油所では、四日市玉を取り扱う広域系中心に59.5～60.1円の売買唱えが広く残り、市況を形成。9号地も目立った価格改定は表面化せず、おおよそ前日並みの売買唱えが残った。大手タンク業者などを含め、商社系ターミナルや丸中ターミナルで59.7～60.7円で引き取り可能。

A重油は製油所出しが前日から変わらずの59.0～59.6円、9号地も変わらずの59.2～60.2円。

官公需入札では、29日に開札された大垣市民病院向け8月納めLSA182klは、地場ディー

ラーの種田石油店が届け61.86円で落札した。また、25日には5日、富山県の北陸中央病院向け8月納めLSA重油50klが届け63.5円で落札された。

◎阪神

○概況

スポット市況は製油所出し、油槽所出しが全油種で横ばい。7月渡し商談が概ね一巡しており、市場は閑散とした状況だ。月次枠の消化を進めて、販売休止する卸業者も散見されるが、市況への影響は軽微という。各油種で荷動きが精彩を欠くことも、地合いが強まりにくい一因だ。

○ガソリン

製油所出しが前日から横ばいの57.7～58.2円(揮発油税込み111.5～112.0円)、油槽所出しが同横ばいの57.5～58.0円(揮発油税込み111.3～111.8円)。

スポット価格は製油所出し、油槽所出しともに変わらず。手持ち玉の消化を終えて様子見に退くディーラーが散見されるものの、売り物の払底には至らず、市況が切り上がる様子はない。一方、31日から8月渡し商談がスタートするが、ガソリンはリセット値上げの発生を想定する市場関係者が多い。ただ、目先で仮需めいた引き合いは限定的だ。買い手の間では系列回帰が起きているほか、先高に対して懐疑的な声がところが多いといった理由に起因する。お盆休み入りを前に卸業者各社の販売が加速し、リセット値上げの効果は早い段階で息切れしそうとの見方も寄せられている。

製油所出しでは、民族系元売り玉の取扱い業者が、31日渡し分の販売を111.5円で継続。民族系元売りルートでは111.7円の出物もみられた。また、民族系元売り玉を扱う別の卸

業者も111円台後半で商談。他社玉をベースとする111.7～111.9円の成約も寄せられている。このほか四国の元売りとされるルートでは112円程度の唱えが浮上。他社玉をベースに112円で商談を進めるディーラーもみられた。広域ディーラーの一角も112円で打ち出している。112円より高い売唱えも寄せられているが、活発に商談された様子は窺えない。

油槽所出しでは、堺ターミナルで111.3～111.8円の出物が残存。櫻島ターミナルでは111.5～112円の唱えが聞かれた。油槽所では111.8円超の売り物に対し、買い手の反応は鈍いようだ。111.3円を割り込んだ玉もあるが、ここまで踏み込む売り手は限られている。

阪神出しの届け取引では、EX 換算111～111.2円の商談が残存。全体的には111.5～111.8円程度の取引により厚みがあるという。

西日本の海上市況は、現在60円程度で推移している。

財務省貿易統計によると、6月のガソリン輸入実績は、堺泉北港が6万6,895kl、大阪(本関)が1万1,083klとなっている。

○灯油

製油所出しが前日から横ばいの60.0～60.5円、油槽所出しが同横ばいの60.0～60.5円。

スポット価格は製油所出し、油槽所出しともに横ばい。7月渡し商談を手仕舞い様子見に

退いた卸業者が大勢とあって、足元は値動きに乏しい状況だ。

製油所出しでは、広域ディーラーの一角が31日渡し分を対象に60円での販売を継続。他社玉をベースに60.2~60.3円で商談を進める卸業者もみられた。民族系元売り玉などの取扱い業者は60.5円の販価を提示。多様な仕入れを有するディーラーも60.5円で売り気を示した。60.5円超の出物が活発にやりとりされた気配はない。足元では月内商談を手仕舞った卸業者も多く、製油所出しで60.5円の出物

は手当て困難との見方もある。ただ、不需要期で荷動き自体が精彩を欠くなど、商談水準の上昇を指摘する声は出ていない。

油槽所出しでは、櫻島ターミナルで60~60.5円の唱えが聞かれた。堺ターミナルでは60.5円程度で手当て可能となっている。油槽所では60.5円より高い売り物もあるが、買い手の反応はいまひとつ。60円割れの出物は手当て可能な業者が少ないようだ。

西日本の海上市況は、現在56円台半ばで推移している。

○軽油

製油所出し課税玉が前日から横ばいの59.8~60.3円、未課税玉が同横ばいの60.8~61.0円、油槽所出しが同横ばいの60.0~61.0円。

スポット価格は製油所出し、油槽所出しともに変化せず。手持ち玉の消化を終えた卸業者から販売休止の動きが出ているものの、全体的には前日並みの値位置で複数の売り物が残存しており、相場は足踏み状態となっている。

製油所出しの課税玉では、四国の元売りルートから31日渡し分を対象とする59.8~60円程度の唱えが浮上。民族系元売りルートでは59.9~60.1円の出物がみられた。他社玉を担いだ卸業者は60.2円で商談。他社玉をベースとする60.2~60.3円の成約も寄せられている。このほか複数ルートの仕入れを有するディーラーも60.3円の販価を示した。60.3円超の出物に対して、買い手の反応は総じて冴えない。

製油所出しの未課税玉は60.8~61円の売唱えが残存。足元では価格提示を止めた卸業者

も複数現れているが、前日並みの価格帯で打ち出す業者が散見されることから、値位置の変化を指摘する声は聞かれない。61円超の売り物もあるが、活発なやりとりは見受けられず。60.8円割れの出物も見え隠れするが、この水準で玉を確保可能な買い手は少ないようだ。

油槽所出しでは、堺ターミナルで60~60.5円の出物が残存。櫻島ターミナルでは61円の唱えが聞かれた。油槽所では61円超の出物に対して、買い手の反応はいまひとつ。60円割れの取引もあるが、ここまで踏み込むディーラーは少ないようだ。

8月前半納期のインタンク折衝では、宅配大手が大阪府下に設けた物流基地向けが届け93円台前半で妥結。兵庫県下に設けた基地向けも同93円台前半でまとまっている。

西日本の海上市況は、現在63円台後半で推移している。

○重油

A 重油は製油所出しが前日から横ばいの59.0~59.5円、油槽所出しが同横ばいの59.2~59.7円。LSA 重油は製油所出しが同横ばい

の59.5~60.0円、油槽所出しが同横ばいの59.7~60.2円。

スポット価格は製油所出し、油槽所出しともにもち合い。前日並みの水準で販価を据え置き、市場を静観する卸業者がほとんどだ。

製油所出しのLSA重油では、複数ルートの仕入れを有する卸業者が、31日渡し分を59.5円で提示。別の広域ディーラーも59.5円の販価を残した。旧外資系元売りとみられるルートでは59円台後半～60円の売り物が点在。複数ルートの仕入れを有するディーラーは60円で打ち出している。60円の出物が民族系元売

りルートでも手当てが可能だ。60円超の売り物もあるが、積極的に商談された様子は窺えない。

製油所出しのA重油は59～59.5円。LSA重油対比1円安で打ち出す業者もいるが、全体的には0.5円安で販価を設定する業者が多かった。

西日本の海上市況は、現在A重油が現在58円台半ば、LSA重油が59円程度で推移している。

◎四国

○概況

スポット市況はガソリン、重油が強含み。足元は月次枠消化を終えたディーラーが増加し、値上げしたり、販売休止する動きが広がっている。灯油、軽油は横ばい。ガソリンと比較し浮遊玉は残るものの、7月渡し商談は概ね一巡。相場は足踏み状態となっている。

○ガソリン

前日比0.35円高の57.9～58.9円(揮発油税込み111.7～112.7円)。

スポット価格は強含み。外販枠消化にめどを付けた卸業者が増え、出物が薄くなっている。このため卸業者ごとに玉を確保可能な水準に開きが出ており、目先の商談水準は広範に亘る。足元で仮需めいた引き合いが目に見えて活発化した様子はないという。買い手の系列回帰などが背景にある。

坂出出しでは、民族系元売りとされるルートから31日渡し分を対象とする111.7～111.9円の取引が浮上。広域ディーラーの一角も111.7円で打ち出している。民族系元売りとみられるルートでは112.2～112.5円の唱えも浮

上。多様な仕入れを有する卸業者は112.7円で打ち出している。出物の薄さを受け、112.7円超でも商談が進み出しているが、今のところ荷動きは精彩を欠くという。一方、111.7円割れの出物も見え隠れするが、実際に手当て可能な買い手は少ないようだ。

菊間の業者間取引では、114円台前半の売り物が見積もりベースで手当て可能となっている。

中国地区では、水島出しが112円台前半～半ば、宇部出しが111円台前半～112円台前半で商談が進んでいるもよう。

届け取引では、香川県の中讃地区向けが、届け113円程度で売り込まれた。

○灯油

前日と同じ60.9～61.5円。

スポット価格は横ばい。7月渡し商談を概ね終え、市場を模様眺めする卸業者が大勢だ。

坂出出しでは、広域ディーラーの一角が31日期限で60.9円の販価を提示。民族系元売り

玉などの取扱い業者らは61円で打ち出している。他社玉をベースに販価を組み立てたディーラーは61円台前半を提示。複数ルートの仕入れを有する卸業者は61.5円で見積もりを出

した。61.5円超の売値も寄せられているが、積極的に商談された様子はない。

菊間の業者間では、62円台半ばの売り物が見積もりベースで買付け可能となっている。

届け取引では、香川県の中讃地区向けが、届け62円程度で売り込まれた。

○軽油

前日と同じ60.1～61.1円。

スポット価格は横ばい。手持ち玉消化を急ぐ卸業者はあるものの、7月渡し取引は一巡モードが広がっており、積極的な販価の下方修正にはつながらない。

坂出出しの課税玉では、民族系元売り玉などの取扱い業者が、31日渡し分を60.1～60円台半ばで商談。民族系元売りルートでは60円台前半の唱えが寄せられている。また、民族系元売り玉など複数ルートの仕入れを有する

ディーラーは60.5円で販売。他社玉をベースとする60.6～60.7円の見積もりも出回っている。一方、未課税玉は61円程度から手当て可能だが、課税玉の値位置を考慮すると、オーダーの入りやすい水準は61.1円までという。

菊間の業者間では、未課税玉が62円台半ばで調達可能となっている。

届け取引では、香川県の中讃地区向けが、課税玉の場合届け61円台半ば、未課税玉の場合62円台半ばで見積もりが出された。

○重油

A 重油が前日比0.05円高の59.8～60.3円、LSA 重油が同0.05円高の60.3～60.8円。

スポット市況は小幅続伸。安値圏では外販枠消化を終えたディーラーが現れており、商談水準も底値がにわかに切り上がった。

坂出出しのA重油では、民族系元売り玉などの取扱い業者が、31日期限で59.8円の販価を提示。広域ディーラーの一角も59.8円で打ち出している。民族系元売り玉など複数ルートの仕入れを有するディーラーは60円で商談。他社玉をベースとする唱えでは60.1～60.2円が散見された。また広域ディーラーの一角は

60.3円を提示。別の卸業者も60.3円で売り気を示した。

一方、LSA重油は60.3～60.8円。A重油、LSA重油ともこれらの価格帯に該当しない唱えも寄せられているが、積極的に取引された様子はない。

菊間の業者間では、A重油で60円台半ば、LSA重油で61円程度の出物が手当て可能となっている。

届け取引では、香川県の中讃地区向けがA重油で届け60円台後半、LSA重油が同61円台前半でそれぞれ手当て可能となっている。

◎九州

○概況

ガソリンのスポット市況が小幅に反発した。前日まで売り込みをかけていた業者の中に、唱えを引き上げる、または提示を取り止めるなどして様子見する動きが増加した。好天と高気温から店頭販売が好調となっており、買い手からの引き合いが増えているようだ。

中間三品はわずかな値動きにとどまった。消化を終えて唱えを引き上げる業者もいたものの、上値圏を追うような動きには至っていない。31日に元売り各社が系列向け仕切りを改定するまでは、模様眺めの姿勢を取る業者が多そうだ。

○ガソリン

前日比0.25円高の57.2～58.2円(揮発油税込み111.0～112.0円)。

スポット相場は小幅上昇となった。売り手の中には消化を終えて値上げするケースや唱えの打ち出し自体を控えるケースが出始めている。8月以降の相場上昇を見据えて足元での手当てを優先する業者もあり、相場は切り上がった。

商社、ディーラー間のスポット玉は徐々に細ってはいるものの、引き続き調達量の多い買い手や地場有力ディーラーに対しては割安な売り込みがある。特にジャパンオイルネットワーク(JONET)福岡油槽所出しではいまだに製油所市況を大きく下回る玉が出回っている。玉の消化が終わらず、オーダー喚起を目的とした売り込みが続いているもよう。この一方でJONETの八代油槽所、小倉油槽所では割安な玉が急速に細り、相場は大きく切り上がった。福岡の市況と対比して1.5～2円ほど割高な水準でも成約に至ることがある

という。7月以降、JONETの株式を保有する民族系大手元売りが商社やディーラーがJONET基地間で玉を融通することを原則として禁止。在庫の高低の調整が困難になっているという。また、ローリーの確保難もあって、油槽所間の裁定が働きにくくなっているようだ。

西戸崎出荷では商社、ディーラー間向けの見積もりを112円台まで引き上げるケースが増加している。一般的な提示価格は112～112.5円まで上昇していた。しかし、依然として交渉ベースで商社系ディーラーや大手広域ディーラーが111～111.5円で売り応じるケースも残存。東浜出荷でも111.5～111.8円といった売値が提示されているため、112円を上回る玉には買い手がつきにくいという。

TOCOM現物市場では北九州出し20klが57.7円(同111.5円)で成約された。受渡期間は7月中となっている。

○灯油

前日から横ばいの61.5～62.2円。

スポット価格は前日の水準から変わらなかった。TOCOM先物市況は上昇しているものの、これを受けて唱えを上方修正する業者は極めて限定的。需要もなく活発な売買も行われていない。

西戸崎出荷の売値では62円台が主流。市況

連動玉や先物玉などをベースに62～62.2円が提示されていた。東浜や荒津でも61.9～62円、62.2円が提示されている。一部の出荷地では地場有力ディーラー向けに61.5～61.6円、限定的に61.2円で売り応じるケースも残存しているため相場が大きく切り上がる兆候はない。

○軽油

前日から横ばいの61.2～62.0円。

スポット市況は前日から横ばい。いまだに消化の終わらない業者が多く、引き続き売り込みのための安値が残存している。

課税玉の売値では引き続き61円台が一般的なとなっている。西戸崎では複数の業者が61.2

～61.8円を見積もりで提示していた。他の広域ディーラーは62～62.4円などを提示しているものの、同価格帯は買い手が付きにくい状況だ。

未課税玉では引き続き61円台後半～62円台の売り物が買い手の注目を集めている。61.8～62円が課税玉と対比して買い妙味のある水

準だ。また、課税玉の価格を意識して61.2～61.5円、向け先を絞って61円まで踏み込む業者もいた。

入札関連では、大手運送業者向け8月上旬納期物が決着した。福岡向けは届け94円台前半で

妥結。引取税や運賃を差し引くと61円を割り込み、スポット市況を下回った。一方、鹿児島向けは届け95円台後半となり、EX換算では62円台前半となる。

○重油

A重油は60.5～61.3円、LSA重油は61.0～62.0円といずれも横ばい。

スポット相場は前日から持ち合った。売り手、買い手ともに積極的な売買には動いておらず、商談水準にも変化はなかった。

A重油では引き続き60円台が一般的な提示価格。西戸崎出荷では引き続き市況連動の玉をベースとする売り物が60.5～60.8円を出回っている。これらの玉は見積もりベースで

買い付けできる。一方、荒津では引き続き61円台が一般的な唱え。民族系の複数元売り玉などが61～61.3円で出回っていた。

LSA重油の売値はまちまち。A重油と比較して0.5～1円の上ザヤが形成されている。61～62円が複数の出荷地で提示された。

入札関連では、福岡刑務所向け8月納めのA重油98klが届け61.99円で落札された。2番札よりも1円以上安い。

◎国内ローリーラック(陸上)JOF・OTC・T-WINDOW成約

油種	場所	対象	数量(kl)	成約値(円)	条件
ガソリン	北九州	T-WINDOW	20	57,700	7月
ガソリン	福井	T-WINDOW	10	58,900	7月

※JOF、TOCOM現物市場の成約は午前10時～午後3時30分に限定

◎マーケットニュース

○日本取引所G＝東商取株式の公開買い付け開始

日本取引所グループは30日開催の取締役会で、東京商品取引所の普通株式および無議決権株式の取得を決めた。金融商品取引法による公開買付けを実施する。買付け期間は8月1日～9月24日の36日営業日を予定しており、買付け価格は普通株式1株が487円、無議決権株式1株が48,700円。買付け予定株数は312万4,573株。

○貿易統計速報＝7月上旬の原油輸入CIF価格、47,000円台に下落

財務省が30日に発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、7月上旬の原油・粗油輸入平均CIF価格(JCC)はキロリットル(kl)あたり47,273円と6月下旬比で2,291円切り下がった。6月の月間平均比でも2,864円安い。7月上旬の通関量は433万6,000klとなり、6月下旬比で38万6,000kl増加した。7月上旬の為替レートは1ドル＝107.83円だった。6月のJCC速報値は50,132円とわずかに下方修正された一方、5月の同確報値は50,995円へと上方修正された。

○宇部市交通局＝8月納め市バス向け軽油、届け95円で落札

宇部市交通局が26日に開札した8月納め市バス向け軽油70klの競争入札は、届け95円で広域系の新出光が落札した。7月納価から0.5円の値上がり。

○陸上入札＝福岡刑務所向け8～9月納めA重油、届け61円台で落札

福岡刑務所が30日に開札した、8～9月納めA重油98klの一般競争入札は、届け61.99円で落札された。前月比で3.3円安となる。落札したのはシューワ。2番札は林兼石油が63円だった。6～7月112kl分の前回入札は、届け65.3円で林兼石油によって落札されていた。

○陸上入札＝大垣市民病院8月納めLSA重油、届け61円台後半で落札

岐阜県大垣市の市民病院が29日に開札した8月納めLSA重油182klの競争入札は、届け61.86円で地場ディーラーの種田石油店が落札した。7月納価比0.56円の値上がり。

◇弊社ウェブサイトURLは www.rim-intelligence.co.jp

◇リム価格は登録商標です。登録番号は第5387777号。

※リムレポートの転送は著作権により堅く禁じられております。購読契約者である組織以外だけでなく、同契約者の組織内の他部署、支社、支店などへの転送も出来ません。本レポートの全部もしくは一部の転載も禁じられています。著作権違反が発覚した場合、違約金が発生することがあります。本レポートに記載された情報の正確性については万全を期しておりますが、購読者が本レポートの情報をを用いて行う一切の行為に関して、リム情報開発株式会社は責任を負いません。また、天災、事変その他非常事態が発生し、または発生するおそれがあり、運営が困難となった場合、レポート発行を一時的に中断することがあります。

事業所一覧 [東京本社]

Tel: 03-3552-2411, Fax: 03-3552-2415

e-mail: info@rim-intelligence.co.jp

[シンガポール支局]

Tel: (65)-6345-9894, Fax (65)-6345-9894,

e-mail: hagimoto@rim-intelligence.co.jp

[北京支社]

Tel: (86)10-6498-0455, Fax: (86)10-6428-1725

e-mail: guan hong@rimbj.com

[インド支局]

Tel: (91)-98795-50717, e-mail: kamlesh@rim-intelligence.co.jp

[上海支社]

Tel: (86)-21-5111-3575, e-mail: rim_sh@rim-intelligence.co.jp

(C) 2019 RIM INTELLIGENCE CO.